

平成26年度

一般財団法人調布市武者小路実篤記念館
臨時評議員会

議 事 録

一般財団法人調布市武者小路実篤記念館

一般財団法人調布市武者小路実篤記念館
平成26年度臨時評議員会議事録

日時 平成26年11月5日(水)
午後5時 開会
場所 調布市立東部公民館

出席評議員

評議員	武者小路	知行
評議員	瀧田	浩
評議員	小西	聡

出席理事・監事

理事長	福田	宏
常務理事	塚越	博道
監事	新井	七吾
監事	小柳	栄

事務局長	小塚	美江
事務局次長	福島	さとみ
事業係長	伊藤	陽子

(午後5時 開会)

[議事次第]

—理事長あいさつ—

第1 議題

(1) 審議事項

議案第1号 議事録署名人の選出について

(2) 報告事項

報告第1号 平成26年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館補正予算(第1号)

報告第2号 一般財団法人調布市武者小路実篤記念館積立金規程の制定について

報告第3号 上半期事業報告について

報告第4号 平成27年度職員採用について

第2 その他

○事務局　それでは、定刻になりましたので、平成26年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館臨時評議員会をこれより開催いたします。本日は、非常にご多忙の中、ご出席を賜りまして、まことにありがとうございます。また、本日は、臨時評議員会に理事長、常務理事及び監事の方も同席いただきまして、開催させていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、はじめに理事長、ご挨拶をお願いいたします。

○福田理事長　皆様、お忙しい中、お集まりいただきまして大変ありがとうございます。座ってご挨拶をさせていただきます。

武者小路記念館も、来年また節目の年を迎えるわけでごさいます、その点は後ほど事務局からお話があるかと思いますが、これだけの30年間の歴史をつくってまいりましたのも、市民の方々の支えがあつてのことと厚く御礼を申し上げたいと思います。

また、こちらにもおいでの評議員の方あるいは市民の方々、いろいろ支えがあつて、ここまでやってこられたとっております。厚く御礼を申し上げたいと思います。

今、解説をさせていただいたんですが、今回は秋の特別展ということで、「父・実篤の周辺で」ということで辰子様がお書きになったいろいろな評論をまとめた本を一昨年出しました。そんなことで、それを中心にきょう、ご説明したとおりで、実篤さんの家族を大事にする姿というのがよくあらわれている今回の展示かと思えます。そういったことが彼の作品の中にまた生かされているということで、これも非常に興味深いことだと私も聞いておりました。

それから、これはきょうのご報告の中には外れてしまったんですが、10月になったら、河野通勢さんという実篤さんと非常に親しい画家さんがいらっしゃいました。有名な岸田劉生さんとかなんかをご一緒になって、草土社というグループをおつくりになったり、大正期に日本の洋画界を引っ張った有名な方でいらっしゃるのですが、その方のご遺族が先般、調布市にいろいろ作品だとか資料をご寄贈いただきました。

10月4日でしたか、この展示が始まった日に、ご家族の方々、三男ですか、もうご高齢の方も中心にお見えになって、市長に目録をお渡しいただきました。これだけのまとまった資料を、記念館があるからとってお預けいただいた、ご寄贈いただいたということはありがたいことだと思っております。

たまたま今回の特別展と一緒にですが、12月7日まで、こちらはたづくりのほうでやっております。既にごらんいただいている方も多いと思いますが、これだけこの河野通勢さんということに焦点を当てた展覧会というのは、そうたびたびは行われないかと思imasuので、ご興味ある方はごらんいただきたいと思imasu。

○事務局　　ありがとうございました。

それでは、ただいまから臨時評議員会を開会いたします。

評議員会の進行は一般財団法人調布市武者小路実篤記念館定款第18条の規定により、評議員の中から議長を選出することになってはいますが、いかがいたしましょうか。

(事務局一任の声あり)

○事務局　　ただいま、事務局一任の声がありました。事務局一任でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○事務局　　異議なしということですので、事務局から指名させていただきます。

それでは、武者小路評議員にお願いしたいと思imasuがいかがでしょうか。

(異議なし)

それでは武者小路評議員に議長をお願いし、これからの議事進行をお願いいたします。

○武者小路議長　　それでは、私が議長を務めさせていただきます。よろしくお願いたします。

議事に入ります前に、本日の臨時評議員会の効力について、事務局からご報告をお願いいたします。

○事務局　　それでは、ご報告いたします。本日は、浅井評議員と新井評

議員がおかれましては欠席される旨、ご連絡をいただいておりますので、ただいまの時点で、評議員3人出席していただいております。つきましては、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館定款第19条に定める定足数に達しております。

以上でございます。よろしく願いいたします。

○武者小路議長　それでは、お手元の議事次第のとおり進めてまいりたいと思います。

初めに、議案第1号「議事録署名人の選出について」を議題といたします。事務局から説明をお願いいたします。

○事務局　議事録署名人につきましては、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館定款第22条第2項の規定により、出席した評議員の中から2名選出することとされていますが、本日は武者小路議長以外には小西評議員と瀧田評議員しかおりませんので、お二人にお願いするというところでよろしいでしょうか。

(異議なし)

○武者小路議長　それでは、小西評議員と瀧田評議員が議事録署名人に選出されました。

次に報告事項に移ります。報告第1号平成26年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館補正予算(第1号)について、事務局から説明をお願いします。

○事務局　それでは、報告第1号について説明をさせていただきます。

報告第1号平成26年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館補正予算(第1号)。でございます。

それでは、ページをちょっと繰っていただきまして、補正予算(第1号)(案)をごらんいただきたいと思います。

平成25年5月30日に開催されました調布市武者小路実篤記念館運営事業団理事会におきまして、議案第3号調布市武者小路実篤記念館運営事業団の清算について承認がなされました。この内容は、平成25年4月1日に設置いたしました一般財団法人調布市武者小路実篤記念館が、運営事業団の解散に伴いまして、事業団が実施してまいりました事業及び財産、これが積立金のことなんですが、これらを引き継ぐというものです。

もう1枚繰っていただき、収支予算書総括表。I事業活動収支の部

(事業活動収入)をごらんください。平成26年度に旧運営事業団の積立金を財団に引き継ぐための手続を行うにあたりまして、収入の大科目6諸収入の中に、中科目4繰入金を新設し、ここに旧事業団の積立金を繰り入れます。なお、旧事業団の積立金は現在、470万9、471円です。

それから、もう一度繰ってください。(事業活動支出)をごらんください。支出の大科目1管理費の中の中科目2事務費の中に、先ほど繰っていたページにありますように小科目、そして12の繰出金をここに新設し、歳入と同額の470万9、471円を支出し、財団積立金としたいというふうに考えております。

その結果、歳入歳出それぞれ470万1、000円とするものです。なお、積立金は、調布市武者小路実篤記念館事業を充実し、かつ継続的に推進するために必要な資金を充てることを目的といたします。

説明は以上でございます。

○武者小路議長 ただいま事務局から、説明をいただきましたが、ご質問はございませんでしょうか。

特にないようでしたら、報告第1号平成26年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館補正予算(第1号)はご承認いただいたということにいたします。

次に、報告第2号一般財団法人調布市武者小路実篤記念館積立金規程の制定について、先ほどの補正予算(第1号)と関わりがありますが、積立金規程の制定について事務局から報告をお願いいたします。

○事務局 報告第2号一般財団法人調布市武者小路実篤記念館積立金規程の制定についてでございます。事務局次長福島からご説明いたします。

○事務局 それでは、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館積立金規程の説明をさせていただきます。資料の1をご覧くださいと存じます。

今回、調布市武者小路実篤記念館運営事業団の積立金を当財団が引き継ぐにあたり、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館積立金規程を制定いたしました。

これは、事業団時代の積立金規程の意思を受け継ぎ、調布市武者小路実篤記念館事業を充実し、かつ継続的に推進するために必要な資金に充てることを目的といたしております。

積立金は2種類ございます。実篤記念館の事業の充実及び推進するための一般会計積立金と、ミュージアムグッズの開発及び内容を充実するための特別会計積立金からなります。

積立金は寄附によるもののほか、毎年度、予算で定める額を積み立て、金融機関への預貯金その他最も確実かつ有利な方法で管理し、運用収益は積立金に繰り入れます。

積立金は、目的を達成するために活用してまいります。その対象事業は次のように定められております。1 多額の経費を必要とする展示及び普及事業。2 計画的かつ継続的に実施する必要がある展示及び普及事業。3 周年等の記念的事業。4 ミュージアムグッズの製作に多額の経費を必要とする事業。5 ミュージアムグッズの販売に必要な備品等の購入事業。6 前各号に定めるもののほか、理事長が必要と認める事業でございます。

この規程は、平成26年11月5日の施行となっております。

説明は以上でございます。

○武者小路議長　いかがでございましょうか。質問はございますでしょうか。

(異議なし)

○武者小路議長　特にご異論がないようでございますので、積立金規程についてはご承認いただけたと思います。よろしく願いいたします。

では、その次に、報告第3号です上半期の事業報告について事務局から報告をお願いいたします。

○事務局　報告第3号上半期事業報告についてでございます。事業係長の伊藤からご説明をいたしますので、よろしく願いいたします。

○事務局　それでは、ご説明申し上げます。

平成26年度上半期事業の報告でございます。お手元でございます資料2をごらんいただきながらご説明申し上げたいと思います。

まず、1の項目でございます。利用状況でございますけれども、こちらの人数など、前年度との比較などもごらんいただけるかと思いますが、入館者数、公園利用者数とも20%程度の増加という状況になっております。

この中で、特に目立っておりますのが、子供の利用者が72%の増というのが目立っているかと思いますが、こちらは資料の一番最後のところにつけてございます年間集計表をごらんいただきますと、8月の子供の利用者数が非常に多くなっておりまして、夏休みのさまざまな企画での利用というのがことしは非常に顕著にございました。こちらの効果かというふう感じております。

それから、公園の利用者数に関しましては、これも後ほどのその他報告

のところでも取り上げますが、ヒカリモに関する報道での取り上げが続きまして、5月、6月、またもっと後の時期に、テレビなどで散発的に取り上げていただいたということがかなり効果を上げまして、公園来場者の増加につながったものというふうに思っております。

展示事業についてご説明申し上げます。上半期はこの一覧表にございます5つの展覧会を行いました。そのうち特に、春の特別展としまして「美の宝庫」～油井コレクションに見る実篤作品という展覧会では、美術年鑑社という出版社を主宰されていましたが、画商さんでもあった油井一二さんという方が、画商として扱ったけれども、自分の手元に残された作品というものが、現在、佐久市立近代美術館に入っているんですけども、そちらをお借りして展示しました。実篤の作品としましては珍しい作品を皆さんにごらんいただくとともに、画家と画商という、単にそれだけの関係にとどまらない武者小路実篤と油井一二という人の交流というものを紹介するという展覧会を行いました。

佐久市立近代美術館の作品は、あまり外に貸し出されるチャンスのない作品でしたので、特に東京でごらんいただくというのはこれまでになかったチャンスだというふうに思います。油井一二さんとそのご家族、佐久市立近代美術館からの多大な協力をいただいて実施いたしました。

それ以外のところに関しましては、それぞれ実篤記念館が所蔵している資料を、テーマを区切って皆さんにご紹介という形で行ってまいりました。

ページをめくっていただきまして、普及事業のほうのご説明をさせていただきます。普及事業のほうですけれども、各展示ごとに展示解説を行っております、これが4回行われました。それから、講座などが10回、夏休みの自由研究サポートを約1カ月にわたって実施いたしました。

今年度新たな取り組みといたしましては、表で言いますと5番目と7番目、9番目にありますワンコイン講座というものが、今年度新たに設けた講座でございます。

実篤であるとか、実篤記念館について、気軽に入門をしていただくということで、実篤の入門、それから、実篤記念館を知るといような内容での講座を今年度から始めました。これはボランティアの養成講座も兼ねているものです。

実篤はどんな人かとか、実篤記念館はどんなような活動をしているとか、施設はどんなものというようなことをご説明したんですが、そういった入門にかかわるような講座というのを今までやってこなかったということも

ありまして、参加者からは、わかりやすかったということで、気軽に聞かれるような講座をこれからもやってほしいという声をいただきました。

この講座はやはり親しむ機会をつくりたいということで、上半期に1回やったんですが、後期にももう1回、実篤入門と実篤記念館を知るは後期にももう1回ずつ実施するということになっております。

それから、先ほど子供の利用が増えたということをご説明申し上げました夏休みの行事でございませけれども、「作ってみよう！私だけの本」、「筆と墨で絵をかこう」、「うちわに筆と墨で絵をかこう」といったあたりが、夏休みに集中して行った事業なんですけれども、こちら今年度の参加者は大体応募者の定員を超えるような形で好評でございました。

夏休みの自由研究サポートがことしは非常に参加者が多かったんですけれども、昨年度までは週に1日、木曜日のみの開催をしておりましてところを、今年度は7月23日から8月20日までの開館日は毎日対応するという形で行ったということもありまして、いつ来ても参加できるということで、知らずにいらっしゃる方もありましたし、来ればやれるということをご存じで来ていただく方もあったということもあって、利用者が増えました。

その上で利用のされ方なんですけれども、半日滞在して、こちらが用意をしたいろいろなメニューを、どれも全部やっていかれるという方とか、あるいはきょうはこれをやるけれども、また、別の日に来てこれをやりたいなというような、繰り返し来ていただくというような方もあって、かなり濃い使い方をしていただけたのかなというふうに思いました。

また、利用者が増えた、そういった子供たちの利用が増えた1つの要因といたしましては、小学校、中学校では、子供たち全員配布を行っているのですが、その配布の仕方をことしは学校のご協力を得て変えまして、確実に皆様のお手元に届くような形に変更したということで、先生方のご負担を減らして、情報を行き渡らせることができたのではないかというふうに思います。

そういうふうに感じますのは、実篤記念館から遠い地域、東部地域でない西部の地域からの参加者というのもことしは目立ちましたので、これまでは情報が行き渡っていない部分があったのかなということで、今回のやり方のほうが効果的に皆様に情報が伝えられたのではないかというふうに考えております。

ことしの対応で大分ボランティアさんに、子供たちの自由研究サポートについてはご活躍いただきましたので、これらかもそのニーズに合わせて、

ボランティアさん方の活躍もしていただきたいというふうに考えております。

それから、ボランティア事業でございますけれども、上半期の登録者は28名でございます。ことしからグループ分けをいたしまして、環境グループ、普及事業グループ、ガイドグループというふうに、それぞれグループごとにいろいろな連絡会などを行い活動も行っております。

こちらは、それぞれボランティア参加者の方の希望される内容というのがそれぞれ違われるので、それに合った形で活動していただけるような仕組みとして始めました。

ボランティア活動に対する利用でございますけれども、ガイドボランティア、昨年10月から新しい方法でガイドを始めたんですが、こちらが非常に好評で、上半期の利用者が303名ということなんですが、ガイドボランティアの方がガイドをやっていただける日はほとんどフル稼働、実施時間を延長するようぐらいの好評をいただいております。

運営する側といたしましては、ガイドを担当していただけるボランティアの方の人数が足りないと感じるぐらいになっておりまして、ボランティアの養成自体も方法を変えて、いつからでも養成に参加できるという形に変えましたので、随時参加いただける方を募集して、ボランティアの養成を行っていききたいというふうに考えております。

養成方法といたしましては、必要な講座を2年以内に受講していただくという制度にしておりますので、いつからでも手を挙げていただけるという形になりました。

広報事業でございます。これは通常ベースでございますが、市報あるいは市のツイッターなどの事業と、それから、これは市の広報課を通したもののなのですが、広報リリースなどの情報提供を行っております。

それ以外にマスコミ側からの取材なども対応しております。

ことしは先ほど申し上げましたように、ヒカリモに関する取材が目立っております。

次に、印刷物の編集でございますが、これも通常ベースで特別展のパンフレットと夏休みの子供たちの利用までにあわせて「もっと知りたい」という解説シートを3枚1組のワンシリーズということで今年も製作しました。

ページをめくっていただきまして、資料収集・管理事業でございます。上半期の収集は、図書・雑誌などございまして、寄贈の図書・雑誌とい

うのは、これは出版社などからの、出版に際しての納本のような形でいただいたものがほとんどです。

資料管理でございますけれども、作品・資料の貸出、返却など、それから、写真の貸出などもございますけれども、この作品・資料の利用に關しましては、今回、新たに発行しました館報のトピックのほうで詳しくご説明申し上げておりますけれども、実篤記念館の所蔵作品・資料が、例えば横須賀美術館の「おいしいアート」であるとか、世田谷美術館での岸田三代展などで使われることで、より皆様に見ていただくチャンスが増えまして、調布市並びに実篤記念館の所蔵品がこういうものがあるということを知っていただきたく機会になっているかと思えます。

それから、話題になりましたものといましては、大塚国際美術館でゴッホの向日葵の陶板の作成というのが行われまして、これはかなりマスコミでも報道されたものですが、これも武者小路実篤記念館が所蔵している大正時代につくられた複製画をもとにして、現在はもう絵としては消失してしまっているものをカラーで復元されました。私どもの所蔵資料が活用されたということで、これもちょうど戦災で焼けたものですから、ゴッホの向日葵のオリジナルは、それが終戦関係の報道などと一緒にNHKなどでも報道されたということでございます。

それから、次のページに参りますが、閲覧サービス・情報公開事業でございますけれども、こちらが今年度の各月の実際の利用状況を数字であらわしたものでございますけれども、昨年度と数字的な比較をいたしますと、おおむね増加しております。総数で申し上げますと、閲覧室の利用者数が前年度に対して66名の増加。情報提供システムが434名の増加、収蔵品検索システムの利用が前年度に対して38名の増加、レファレンス対応に關して、カウンターでの受付が今年度かなり減ってまして、120件の減少なんです。これはひとつには、昨年まで定期的に来ていた団体利用が減っていることが1つには挙げられるのではないかとこのように分析しております。

電話・Eメールなどでの受付も、わずかですが5件ですけれども増加しております。実篤記念館が所蔵している資料あるいはこれまで伝えてきた情報の利用がされているのではないかとこのように考えています。

その他といまして、先ほどから何度かご説明申し上げましたけれども、ヒカリモの報道ということで、利用者が増えておりまして、これはヒカリモという形で報道されることで、実篤記念館とか公園の存在を初めて知るといふ方が多いので、初めての利用、あるいは遠距離からの利用とい

うものが増加しているように感じております。

それから、グッズの販売についてなんですが、これまで季節商品だけを外部でその時期だけ扱っていただいたんですけれども、市役所の売店でミュージアムグッズの中でも人気のあるものについて、常設で売っていただくということでお願いできるようになりまして、順調に売れているようでございます。

上半期のグッズの売り上げをこちらに金額がありまして、69.8%の増ということなんですが、こういった常設での市役所での販売、それから大口での市内団体からの購入などがありまして、こういったような売り上げとなりました。

以上でございます。

○武者小路議長　ただいま事務局から説明がありました。上半期事業報告について、何かご質問はございますでしょうか。

○小西評議員　コメントですけれども、3番の普及事業のところ、曜日の入っているところと入っていないのが混在していて、入っているほうが何となく平日にやっている講座なのとかかというのが、ぱっと見てわかりやすいのかなと思ったので、統一されたほうがいいし、手間であれば入っているほうがいいんじゃないのかなと思いました。

あと、内部的には多分見ていらっしゃるんだと思うんですけれども、ご説明いただいている前年差というのは、何が違ったんだというところから、何がよかった、悪かったという振り返りの機会になるんだと思いますので、内部的には多分ごらんになっていると思うんですけど、ポイント、ポイントは、今回みたいに教えていただけるとありがたいです。

○武者小路議長　ありがとうございます。ほかにございますか。どうぞ。

○瀧田評議員　もう一ついいですか。伊藤さんに個人的に聞けばいいのかもしれないんですが、特別展で美術関係の展示をやることがありますね。今回も油井コレクションやったんですけど、これをごらんいらっしゃる方というのは、その美術に対して、美術館に行くような層が見にくるのか。それとも、実篤関連で、特に美術という関心はなくて、新しいのをやっているからぶらっと来るのか、美術に対する関心がもたなくなっていらっしゃる方とか、そういう方はいらっしゃる感じですか。

○事務局　美術全体の関心からの派生というふうにはあまり感じてはなくて、どちらかというと実篤の作品を見たいというようなふうに私どもは感じているところです。実篤記念館でふだんは見られない実篤の絵とい

うような見方。

それから、必ずしもその実篤記念館で今何をやっているかということをお存じでいらっしゃるお客様もあるわけなんですけれども、そういったところで、特別展の場合、ポスターなどもつくっておりますので、こういったものが見られるのかということに入っていただけるというような方もかなりの割合いらっしゃるというふうに思います。

○瀧田評議員　今までいろいろ展示やってきた中で、こういう企画だと人が入るとか、美術関係のほうが入るとか、実篤の言葉とか、人間とか、そういうほうが入る。何かそういう経験値的なものとか、何かございますか。

○事務局　実篤の画賛とか、あと名言のときは、お客様が入ったということもあるんですが、反応される方が、何らかのコメントをされる方が多かったというふうには思っております。

それと、展覧会の内容によって客層が変わる部分もあるんですが、逆に、初日もしくは最初の1週間の間に必ずいらっしゃるお客様というのは、お名前までは存じ上げなくて、こちらが顔を存じ上げていて、大体初日にいらっしゃるお客様とかというのが、かなり何人かおいでになって、展覧会が変わるということをお存じで、そのたびにおいでいただくお客様がある程度固定でいらっしゃいます。そういう方は実篤に関して、いろいろなテーマに全体に興味を持っていただいているということかと思えます。

○瀧田評議員　本来だと、そういう方がどんどん友の会とかに入ってきて、いろいろなつながりができるといいですよ。わかりました。ありがとうございます。

○武者小路議長　今、伊藤さんからお話が出ましたように、瀧田評議員のご質問に対して福島次長はいかがでしょう。

○事務局　確かに実篤の言葉、画賛にかかわる展覧会というのは非常に反応がいいというのは事実です。自分の人生にかかわるところで、やはり共有感というか、共感するところが多いということではいらっしゃる方、それから、父親とか家族がこういうのが好きだったとか、子供のころからこういうのを見ていたけど、もう1回改めて見たいというようなことではいらっしゃる方というのは多うございます。

あと、美術の展覧会という意味でございますけれども、今回、愛蔵品展というのを、この特別展の前にやっておりました。実はぐるっとパスというのを東京都の美術館、博物館との協賛でやっていますが、ぐるっとパス

はどちらかというと美術館、博物館で美術系の興味を持った方が多い。美術系の展覧会をやると、そちらの興味の方が多くご利用される。どちらかというと、ぐるっとパスは文学のテーマでは、全然来ないんですよ。それは顕著ですね。

ですから、ある意味、実篤とのかかわりということもありますけれども、絵を見たい、美術品を見たいという層も、そういう形ではご利用いただいているのかなという気がいたしております。

○武者小路議長　ありがとうございます。今、小西評議員からもご指摘がありましたように、美術に関しては、例えばロダン展なんかやったときには、これはかなりの人数が入りましたよね。美術に関心のある方はまた、そういうのを見つけて来てくださるというのもあるのかなと思います。

小西評議員がいろいろネット上で広めていただいたり、あるいは友の会あるいはこの「美愛真」、それから、市役所等でいろいろ広報していただいて、たまたま目にされるのかもしれませんが、結構そういうものに関心のある方がお集まりいただけているようですね。

あとほかに何かございますか。よろしいですか。

○瀧田評議員　大体初日の1週間ぐらいに、毎回来てくださるなという方には、それこそ友の会の入会とか、お声かけはなさるのかなと思って。

○事務局　受付が、いつもありがとうございますとか、いろいろ声かけはしているんですけども、うちのリピーターの方、比較的何て言うんでしょう、おとなしいというに変ですけど。シャイな方が多くて、積極的に話していらっしゃる方は比較的少ないです。

お声かけして、いつもありがとうございますと毎回、初日にありがとうございますというふうに言っても、ちょっと返事をされて入っちゃうというようなタイプの方が多いので、私どももコミュニケーションを図りたいとは思いつつながら、お邪魔もできないというあたりはなかなかというところではございますが、でも、お互いに知っているというふうには感じていただいているんだろうというふうには思います。

○瀧田評議員　あんまり企画とかは参加されないんですか。展示を見るだけで。

○事務局　声をかけていただくことがほとんどないですね。こちら、お顔を覚えていらっしゃる方、場内で行き会う場合もあるので、そうするとご挨拶したりするんですけど、本当に会釈されるぐらいで、声をかけていただけないことが多いです。何かそういうシャイな方が多いような。なの

で、あまり要望していただくことがないんです。

もうちょっとそういうことの積み上げのできるコミュニケーションの取り方というのがあったらいいかなというふうには思います。

○事務局 受付にいる人間を含めて、お客様にはなるべく笑顔で接して、気持ちよく帰っていただけるようにするようお願いはしているんですけども、いずれにしても、そうやって常連のお客様とのコミュニケーションの方法、あるいはご意見をくみ上げる方法というのは、また研究してまいりたいと思っております。ありがとうございました。

○武者小路議長 大分時間も来ておりますが、上半期の事業報告について、何かさらなるご質問等ございますか。

(なし)

特になければ、本件についてはご了承いただいたものと思います。

次に、報告第4号平成27年度職員採用について事務局からご報告をお願いします。

○事務局 報告第4号平成27年度職員採用についてでございます。事務局次長福島からご説明いたしますので、よろしくお願いいいたします。

○事務局 それでは、平成27年度職員採用について説明をさせていただきます。本日、お配りいたしました資料4をごらんいただきたいと思えます。

現在、当財団では新規正職員1名、総合職事務を平成27年4月1日採用ということで選考を行っております。既に募集を10月30日に締め切りまして、応募者は7名ございました。男性5名、女性2名でございます。いずれも書類選考の上、二次選考に進んでおります。

二次選考は教養試験、論文試験を11月15日に実施いたします。また、三次選考は面接を11月29日に実施いたします。12月5日までに選考作業を終え、応募者に結果を送付いたすことになっております。

選考の日程について、詳しくは資料3の選考日程をごらんいただきたいと思えます。

説明は以上でございます。

○武者小路議長 説明がございました。人事に関する問題ですが、ご質問ございますでしょうか。

(なし)

○武者小路議長 なければ、以上のご報告のとおり、ご了承いただいたと思えます。よろしくお願いいいたします。

その他の報告はありますか、事務局長。

○事務局 河野通勢の作品及び関係資料が、ご遺族から市のほうに寄贈された件につきまして、福島のほうから。それから、また秋の特別展、先ほど見ていただいた展示を初めとします今後の利用について、伊藤のほうからお示ししたいと思います。

○事務局 先ほど理事長が冒頭でお話しいただきましたとおり、河野通勢の展覧会をたづくりのほうで実施しております。この河野通勢というのは、実篤と深くかかわり合った画家の1人でございまして、『白樺』や新しき村の活動にも参加した方です。

そして、大正時代の細密描写の画家として、そして、その後、一時代を築いた文学作品の挿絵を描いたことで注目を浴びている画家でございます。

当財団の前身である事業団時代から、ご遺族のご協力をいただきまして、河野通勢の関連作品、資料を平成12年度から継続的に調査をしてまいりました。長期にお預かりして調査をしてまいりまして、この間、実篤記念館を初め全国の美術館でも、展覧会等でこれらの作品、資料は活用してまいりました。

長年、ご遺族の代表として河野通勢の作品や資料の管理を担ってまいりました通勢の三男河野恒人氏のご高齢になったということで、このたび武者小路実篤記念館の所蔵資料として調布市をはじめ関連の作品や資料を託してきました平塚市美術館、足利市美術館、渋谷区松濤美術館などへ寄贈ということになりました。

その中で、実篤記念館は、先般10月4日、たづくり展の開催しております展覧会会場において、ご遺族から調布市長へ目録の贈呈が行われました。

資料をごらんいただきますように、寄贈作品、資料の概要は総計8,000点余りという膨大な資料の数に及びます。お配りいたしました以前の展覧会の図録に掲載しております大半の作品を今回、ご寄贈いただきまして、それら油彩、挿絵、原画、素描、版画などの主要作品は200点余りでございます。

そのほか挿絵の画稿や直筆資料、日記や書簡、そして、実篤たちが活動してきた時代の参考資料になります西洋美術の受容や風俗を知る上でも貴重な資料となります河野の蔵書、美術関連の資料、当時の展覧会目録とか絵はがきですね。そういったものとか、明治から大正期の複製画など多彩な内容となっております。

中でもご遺族が実篤記念館、調布市のほうへ多く作品、資料を寄贈され

たのは、『白樺』の活動を研究の柱としていること。そしてまた、個人顕彰の実績という点を高く評価されて、ご寄贈いただいたと伺っております。

今回、河野通勢の関連作品、資料をご寄贈いただいたことは、当財団が標榜しております日本で唯一の実篤、『白樺』、新しき村の研究施設としての位置づけを確固たるものにすることができ、また、事業活動をより幅広く、新たな展開をすることが可能となったと思います。

これまでと異なる視点から、武者小路実篤の顕彰や実篤記念館の認知度を高めるということでも、今回の寄贈が期待をすることができると思っております。

以上、河野通勢の関連資料の寄贈についてご報告いたします。

○事務局　では続きまして、秋の特別展と実施関連の事業と、それからこれから行われて、今、お話ありました河野通勢展に関する事業などもございますので、ご案内をしたいと思います。

特別展のほうは、きょう、ごらんいただいた方々には、先ほどご説明申し上げたんですけれども、1日から館でやっております、関連事業といたしまして、16日の日曜日に、知行先生に思い出話をさせていただく会を、こちらを会場にして行うことになっております。

私どもも、今回の展覧会の準備中にお伺いしたこととか、今、新しき村の雑誌に思い出話をお書きになっているんですが、それを読んで初めて知ったお話などもございますので、また、新しい視点から思い出話、聞かせていただけるものというふうに思っております。

それから、河野通勢展のほうに関しまして、今週末、8日に講演会がございまして、挿絵文化の中での河野通勢の位置づけということで、岩切信一郎先生に、たづくりの映像シアターのほうで午後、お話をいただくことになっています。

その翌日、最終日の9日には、今度はこちら、特別展のほうの展示解説も行うということで、2つの会場でそれぞれちょっと大きな展覧会をやっていますので、次々、いろいろな行事を行うことになっております。また、よろしければ、ぜひお運びいただければと思います。

○武者小路議長　以上、ご報告申し上げたとおりでございますが、事務局からの説明がありましたとおりですが、何かご質問ございますか。

(なし)

特にないようでしたら、本日予定しておりました案件は全て終了いたしました。

平成26年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館臨時評議員会を閉会
させていただきます。ありがとうございました。

(午後6時 閉会)